9月にもうすぐならんとしております。市内の方も感染状況は、現在のところ大体前週比、同じ日で75%から80%程度のところの人数という形になりまして、感染者の方の、やや減ってきていらっしゃるという状況でございます。このまま、この傾向が進んでいけば大変ありがたいなと思っております。

それではまずは9月の補正予算の調整が整いましたので、発表させていただきます。今回は、次のページをお願いします。総額といたしましては補正額約109億円ということでございます。去年のこの時期も、だいたい同じくらいの金額でございました。それで、この補正の中で今回の最大の特色といたしますか、今回平成30年の7月豪雨災害発災以来初めて豪雨災害関係の予算を計上をしなくてよい状況になってきたということでございます。これまで500億円を超える7月豪雨災害関連の予算を計上し進めてまいっているところでありましてけれども今回、今のところも多分12月もだと思っておりますけれども、この豪雨関係の補正予算の計上は今のところ予定をしていないということで、もちろんこれ以降全くないわけではないと思っておりますけれども、今回災害以来初めてその予算の計上をしないでよくなった、つまり事業はかなり進んでいるというところが一つの大きな特色だと思っております。

それでは内容の方へまいります。次の次の次、をお願いします。

今回もPCR検査それから、抗原検査等の事業費が大きなものとなっております。

そして次に原油価格高騰・物価高騰、ゼロカーボンシティへの取り組みということで市独自の事業をいくつか発表させていただきます。まず物価高騰対策経済支援事業といたしまして市の取り組みとしまして水道料金の基本料金、これは2期分の4カ月分の基本料金部分のところを市が負担をさせていただくことで、家庭やそして企業へのこの物価高における経済支援ということをさせていただく予算約9億円を計上いたしております。これは、担当課が右の下の方に企画経営室と書いておりますが、

市の一般会計から水道局の特別会計の方に、この4カ月分の基本料相当額を支出することによりまして、水道局が減免という形ではなく、ただ基本料金の部分は請求を申し上げないという形で、住民の皆様への支援を行いたいと考えております。1期分の2カ月の基本料金が1980円でございますので、2期分では約4000円弱と、約4000円程度の支援という形になるかと思っております。

続きましてこれも倉敷市の施策の中で大きなものですが、原油価格高騰対策家庭用電気自動車導入支援事業費ということで4500万円を計上しております。すでに6月補正で業務用電気自動車の購入費用ということで、20万円×200台を計上をいたしておりましたが、この度の予算で15万円×300台の予算の計上ということでさせていただこうと思っております。通常分は令和4年度の当初予算で15万円×100台分ということで計上しておりますが、それとは(別に)、こちらの方は原油価格高騰対策ゼロカーボンへの取り組みということに力点を置いた予算ということで、国の交付金も使っていこうと思っております。

次でございますが、こちらもゼロカーボンシティ関係の予算でございます。市ではゼロカーボンシティの取り組みに向けてさまざまなことを取り組んでおりますけれども、水島清掃工場で発電した電気につきまして、これまでは自家消費というところで自分で使う部分については使い、それ以外の余剰の電力については中国電力さんに売電をいたしておりました。その部分を現在の電気代の非常に乱高下というか、下はないんですけれども高くなるということがございますので、市の公共施設に対する安定的な電気の供給、またその電気代としても安定的に自分のところで供給ができるということも踏まえまして、これまで水島清掃工場だけで使っておりました電気を水島や児島や玉島の下水処理場、また倉敷と児島の環境センター、それから東部埋立事業所、それから水島、玉島のし尿処理場そしてこの庁舎の本庁舎と併せまして、9つの

施設にも供給をすることによりましてゼロカーボンシティへの取り組みを進めていきたいと思っております。これは、もちろん中国電力さんに電線の送電の部分を借りたり電力の需要と供給のバランスを計画を立て調整をするという業務等がございますので、この債務負担行為ということで上げております。年間約 252 トンのCO₂の削減に今回の分であると我々としては見ているところでございます。

続きまして、観光の回復に向けましてビジット倉敷キャンペーンとして外国語パンフレットの調整等についての予算を計上し、これからワクチンの接種要件等も緩和されて、海外からお客様もまた戻って来られる方向になると思っておりますので準備をしていきたいと思っております。

続きまして農業経営収入保険加入推進事業の取り組みでございます。農業共済関係いわゆる NOSAI（ノーサイ）への加入ということで、これは農業経営収入保険への加入が、まだされていらっしゃる方について今回のようなコロナ禍、それから災害等で収入が下がられる部分について安定化を図るため、加入の促進をすることによりまして保険料の一部を負担をさせていただくものでございます。

続きまして、9月補正予算ですので防災・都市基盤の整備について、ため池の防災、そして浸水対策への備え、それから道路、河川、公園、学校園など単独公共事業についての追加分を計上をしております。

続きまして移住定住、そして教育関係の予算について発表させていただきます。倉敷市では移住定住に力を入れておりますけれども、このたび倉敷市の児島下津井地区にお試し住宅を、2部屋分新しく設けるということで、今回予算を計上しております。現在までに倉敷市では、玉島に6部屋お試し住宅を設けておりまして稼働も大変多くの方にご利用いただいているわけですが、この度児島地区こちらの方では移住交流などにも積極的に力を入れていただいておりますので、そこの古民家を再生いた

しまして、そこにお試し住宅として活用していただくということを進めてまいりたいと思っております。

続いて他の学校関係のことです。倉敷市の中央給食調理場に対しましてアレルギーのある児童生徒さんに対応する代替食提供のためのレトルト調理器の導入を今回行うことといたしました。今のアレルギーの除去食は、乳と卵のみに対応している状況でございますけれども、今回このレトルト調理器を用いることによりまして、エビ・イカ・タコのアレルギーの方に対してまずは代替食の提供を、倉敷中央学校給食共同調理場の管内のところにもまず提供ということになりますけれども、レトルト調理器を使っての取り組みを行っていきたいということで、その機材の調達経費を計上しております。私どもが調べているところによりますと、レトルト調理器を使った代替食の提供、アレルギーの分は、おそらく全国初であろうということで調べをしておりますので、今後今回のまずはその導入を踏まえまして、安全性を確認しながらその後の、アレルギー対応の種類等の増加についても進めていきたいと思っております。

続きまして、児島の学校給食共同調理場のことについてでございます。児島地区全体の給食調理場の部分につきましてこれは全体で1日約6000食を調整する共同調理場となります。この分につきまして、令和7年度の夏頃からの運営の開始をめぐりまして、実際の事業者の選定等に向けて進んでいきたいと思っております。それゆえ今回この令和7年からの15年間の運営費用そしてもちろん海技大学校の跡地を活用しまして給食共同調理場を整備をいたしますので、費用等も含めまして約90億円の予算を計上しております。

ということで全体として109億円の予算ということで、大きなものとしては財政調整基金、また真備の災害復旧債の償還等もだんだん始まってまいりますので、減債基金やそれから公共施設は学校施設のこの建て替え等の対応についてお金の工面をし

ていくということで、減債基金等にお金を積んでいるというところでございます。

続きまして、横長の、まずは水道局の民間資金活用による太陽光発電の導入事業実施について、その詳しい内容について発表させていただきます。こちら、市全体での取り組みということですので、水道局で、ゼロカーボンシティに向けた取り組みをするということで進んでまいりましたけれども、この度 PPA (パワーパッチェスアグリメント) 電力購入契約モデルによる太陽光発電設備の倉敷市の片島浄水場への導入が具体的に決定しましたので発表させていただきます。敷地内全体のうちの約 4000 平方メートルを使いまして、そして設備容量が 480 キロワット、年間の発電量が 48 万キロワット時ということで全体の浄水場内の使用量は 320 万キロワット時ということですので、その分の一部ではありますけれども浄水場の中の敷地を活用して太陽光発電の設備を事業者の方に設置をしていただき、そしてその電力を片島浄水場で使うことによってこの CO₂ の削減等を進めてまいります。次の事業効果のところですが、市としては 1 年間に 270 トンの CO₂ の排出削減ということになります。そして電気の使用量については年間でこれまで 6000 万円かかっておりましたのが、5600 万円ということで削減となります。事業実施までの流れということで、事業をするということは委員会等でも発表しておりましたけれども、事業の実際の事業者の方は中国電力さんがこれを行っていただくということになります。そして私どもが伺っているところによりますと、まず一つ目は、市としてのこの今回の実施は、契約相手である中国電力さんとして自治体とのこの PPA 電力こういう契約のモデルによる契約は初めてのことであるということ、それから県内の自治体として民間資金の活用によるこの太陽光発電設備導入事業についての事業ということでは初めてということでお伺いをいたしております。市としては引き続きこの CO₂ 削減に向けて取り組みを行っていきたいと考えております。使用期間は約 20 年ということになって

おります。

それでは最後の発表事項といたしまして、児島ボートモーターボート競走場の施設の大規模な整備改修について発表をさせていただきます。このボートレース場、先年一番最初に行いましたのが競技棟、この図面と言いますと一番右側の奥のところですが、もちろん競技の選手の皆さんが競技をするところで、そこに関する事務の執行を行うところ、そして入り口のゲートというところをまずは改修をいたしました。そして次に改修を行っていくのが主にはお客様がご使用になる部分について、約 40 数年ぶりの改修ということで大変大きな改修となります。第 2 期のスタンドですけれども、新しいものしかここには描いておりませんが、今ここに描いています、上がっていますスタンドがこの 3 期 4 期のスタンドということになるんですけれども、そのこちら側になりました大変大きな第 2 期のスタンド、昭和 54 年に竣工しましたものについて、それを取り壊しまして、新しいお客様がご利用いただける設備を整備をし、併せて第 3 期そして第 4 期こちらは両方とも昭和 62 年、第 4 期は平成 5 年ということの建物ですけれど、これも大幅に改修をいたしまして、このモーターボート場の新しく大規模改修により生まれ変わり、そして地域への貢献度をさらに増したいと思っています。基本理念と基本方針で次のページですけれども、コンセプトは誰もが訪れ快適な時間を過ごせる、開かれたボートレース児島ということですが、1 番から 5 番まで大きな項目がございます。施設規模の適正化ということで、現在来場をしていただけるお客様ももちろんいらっしゃるわけですが、電話投票いわゆるインターネット投票によります舟券のご購入の割合も非常に高くなっているということもありまして、ご来場をされる方のスタンドについて、これまでは席の数が多くて非常に狭いというところだったんですけれども、それを余裕を持って適正な規模に変えるということで大きなこのスタンドの改修をすることといたしました。

収容人数につきましてはこれまで約2万4000人が最大で来ていただける状況でございましたが、これを5000人程度の方に来ていただけるように、そして観覧席についても現在は8600席ございますけれども、それを2000席に施設の規模の適正化、コンパクト化を主眼として行ってまいります。そして2番として多様なニーズへの対応を目指していきたいと思います。これはもちろん第一番にはボートを楽しんでいただけるお客様ということですが、地域の方またボートに、来ていただける方が家族連れまた友達同士そして若い世代の方など非常に今増えてきているところでございます。そういう皆さんたちに対応する設備をつくるということで、3番が多世代が集う交流と賑わいの創出を目指していきたいと思っております。詳しくは次のページからまた絵を出しますけれども、そして4番には防災機能を整備をしたいと思っております。そして環境にも配慮して施設整備を進めていきたくと思っておりますけれども、先ほどこの施設には、多くの方にご利用頂く、そのコンパクトな中でも地域の方にご利用いただけるようにするというをしております、次のページからちょっと絵を出したいと思っております。先ほども言いましたけれども、この辺りが新しくつまり第3期の建物から東のところでのこの入場門のところの間が大きく今回変えるところでございます。次のページです。道路側から見たところがここまでが3期4期ですが、こちらから東のところまでが今回整理を行うところです。はい次お願いします。これは水面場側のところのアプローチ部分ですが、今ももちろん多くの方に外でもご覧いただけるようにいたしておりますが、そこも残し、そして屋内の利用もし、それから上のところ屋外芝生、屋外の広場が使えるようになっておりますけれども、そういう部分も取り入れることによりまして、多くの方、多世代の方にご利用いただきたいと思っております。施設といたしましては1階にイベントホール、そして住民の皆さんがくつろいでいただけるもちろんフードコートの部分、それから特に子どもさん

のご利用ということで、子どもさんたちに遊んでいただける部分、そして今申し上げました屋上のところともつながっているイベント広場、それからここが入場門から入った導入部分です。導入の路線のところですか。ここが上に上がってこの上のところを使っていただけますし、それからこれを向こうに進んでいくと、前のページ、こちらに進んでいくとこのような光景となって、そこに行く子どもさんの遊ぶ部分、遊んでいただく部分、それからこれが大変新しい部分ですけど、ROKU（ロク）と言いまして地域への開放施設であり、また特別観覧席にもなる施設として整備をします。それでさっきコンセプトのところでも申し上げましたけれども、防災機能を整備するというので、ここは、海の目前に迫っているということもありまして住民の皆様が避難場所としては指定をいたしておりません。しかしながら、南海トラフ等の地震が起こったときにここについては約1mぐらいまで水が来るのではないだろうかという計算もされています。そういうこともございますので、地域の皆さんが逃げただけの場所としても、この防災の地域の防災機能として拠点として活用していただけるように考えておりまして、今の新しいスタンドそれから改修をするスタンド、それから屋上にあります上の階にある屋外広場等を使いますと、先ほど収容人数が5000人ということで申し上げましたけれども約5000人程度の皆さんに、災害等の緊急時に一時避難として逃げ込んでいただけるそういう場所として使っていただけておられると思います。ボートレース場として備蓄品の整備等も行いまして、地域に安心して皆さんが使っていただける、日頃からもお使いいただける、そして防災の時にはいざという時にも頼りにしていただける、そういうこの新しい施設整備を行いたいと思っております。今回9月補正予算の中で大きなこちらの事業については全体額が約115億円ということで今後令和8年度のすべての完成に向けて、取り組みを進めていきたいと思っております。

続きましてあと2件、具体的なチラシと発表日等、皆さんにまたぜひご覧いただきたいので、この秋の時期に路線バス・臨鉄の無料デーということで9月24日、10月9日、10月16日、11月5日ということで、倉敷市の路線バス・水島臨海鉄道利用促進事業を行いますので、ぜひ多くの方にご利用いただきたいと思っております。

そして最後にワクチン接種関係ですけれども、イオンモールでのワクチン接種をこちらの方でイオンモールさんの方から貸していただきまして、8月の31日から9月の11日まで、日にちはそれぞれ8月31日、9月1日、2日、3日、4日、そして7日、8日、9日、10日、11日と、平日それから土日も含めまして該当日についてイオンモールのイオンホール2階で予約なし接種を受付をいたしますので、ぜひ該当される方についてはご利用いただきたいと思っております。これまでにイオンモールで約6400人程度の方が接種を受けていらっしゃいます。まだまだ感染も人数が多い状況でございますので、ぜひ多くの方にご利用を該当される方についてはご利用いただけますように、また広報の方も皆様をお願いしまして、私からの発表とさせていただきます。冒頭の説明は以上です。よろしく申し上げます。